連載55 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

（医）東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義（64歳・内科）

空海様とお会いできる窓辺

～在宅医療はまるで生命の大切さを知る修行・巡礼の旅のよう～

最近のことです。某施設から入所者さんの在宅医療の依頼がありました。訪問した初日に診察を始めようとした瞬間、居室の窓から私の目に空海様が飛び込んできたのです。我に返ってよく見てみると、それは石手寺の山頂にそびえ立つ空海像でした。

患者さんの診察を終え、施設の帰りすがらに私は、平成14年春ごろのT.Kさん（大正13年生まれの女性）のことを、走馬灯のごとく思い出していました。そのころの当院では、まだ老人デイケア業務を行なっていました。知人の紹介で、郊外に住まうT.Kさんが老人デイケア利用者さんになり、そして同時に在宅患者さんとなったのです。

訪問診療の初日、T.Kさん宅に伺うと、そこは100坪ほどの広さがあり地主さん宅の風情がありました。玄関先でお兄様に話を伺うと、屋敷の隅にある6畳ほどの別棟（仮設住宅）を指差されました。そこでT.Kさんは寝起きしていたのです。

定期訪問を始め、認知症、糖尿症、変形脊髄症、膝関節症の病状があり、服薬管理指導と痛みの治療（ペインクリニック）を行うことになりました。経済的理由で介護保険は利用できなかったのですが、ご近所の方たちのご厚意で、掃除や買い物などのお世話をしていただき、なんとか生活されていたのです。

ある日訪問してみると、いつものように関節の痛みで横たわり寝たきり状態でしたが、腰痛がひどくなり動けない様子が見られました。そこで、ペインクリニックなどの治療・処置を行いました。そしてボランティアで散らかっている部屋の掃除をさせていただきました。よく見ると台所の隅にあったキャベツからウジ虫が散歩していました。そんな状態になるまでほうっておくとは、ご兄妹の間に何かあったのでしょうか。私には知るよしもありませんが、その日から掃除や肌着など身の回りのことにも気配りすることにしたのです。私はしばしば、T.Kさんを訪問治療した帰り道、近くにある四国八十八ヶ所霊場の札所である某寺に立ち寄って、T.Kさんの幸せを心から空海様にお願い申し上げていました。

さらにT.Kさんには、老人デイケアにて入浴・リハビリ・レクリエーション参加をボランティア活動として職員に義務づけ、研鑽（けんさん）をつむことにしました。そうするうちにみるみると元気を取り戻したT.Kさんでした。しかし、平成17年夏ごろ、合併症の悪化により某病院に入院、その後、関連施設に入所したのですが、しばらくして永眠されたのです。　合掌

モータリゼーションにより生活圏が拡がり、その後インターネット空間により、広くて深い「人間生活圏」が実現しました。私たち介護・看護・医療サービス提供者の業務は、医療法にて「医療機関所在地より半径16km以内の患者さんが対象である」と広範囲に規定されました。

2025年の問題とされている団塊の世代への介護・医療提供には、質の高い文化度と個の深層心理を理解することが求められます。そういった将来を見据えてみると、「四国お遍路の旅」により五感や第六感で体感することは、人と人の絆との出会い、山や海そして植物や動物との自然なふれあい、などそのすべてが私たちにとっても、何か大切なことなのかもしれません。

「お医者さんが来てくれる」
24時間・365日態勢で対応（松山市全域）
私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 19名
（常勤6名、非常勤13名）
内科・外科専門医 16名
（国立がんセンター勤務歴有3名）
精神科専門医 2名
麻酔科専門医 1名
（ペインクリニック科）
末期がん治療（緩和ケア）相談室開設！

Hyper Blood Viscosity（高血液粘度群）を科学する
臨床生命科学（体質・病態学、栄養学）研究所開設
機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
（医）東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788
http://www.touzaikai.jp/